

2013 年度 JAMS 会員総会議事録

事務局

2013 年 12 月 14 日(土)、同志社大学において 2013 年度日本マレーシア学会 (JAMS) の会員総会が行われた。

【議長選出】

西芳実会員が議長に選出された。

【報告事項】

担当の各委員から活動内容に関する報告が行われた。

1. 事務局

山本運営委員長により JAMS が参加している学会等の連合体に関して以下の報告があった。

地域研究コンソーシアム(JCAS)の活動について。JAMS は幹事組織として JCAS の運営を担っており、現在の JCAS 会長は JAMS の宮崎恒二会長である。JCAS は、次世代支援や学会連携などの公募プログラム、地域研究コンソーシアム賞の顕彰などを実施している。各種公募を含む JCAS の活動は、主要なものは事務局からも案内するが、各会員には JCAS ホームページまたは JCAS メールマガジンを参照していただきたい。

地域研究学会連絡協議会(JCASA)の活動について。JCASA では、2013 年 11 月 30 日に立教大学で行われた総会でラテン・アメリカ政経学会の幡谷則子常務理事(上智大学)が事務局長に選出された(任期は 2013 年 12 月 1 日より 2 年間)。会費制で、加盟学会が支払う会費は 2 年間で 5000 円であり、JAMS は 2012 年度まで納入済み。

総務

山本運営委員長より、今年度はこれまでに会報

の No.55 と No.56 を発行し、年度内に No.57 を発行する予定であることが報告された。

会計

坪井祐司委員より、配布資料をもとに 2013 年度の会計中間報告が行われた。

会員情報

篠崎香織委員より以下の報告がなされた。

(1)会員数

2012 年 12 月 14 日の時点で会員数は 202 名とであり、2012 年度の会員総会時から 4 名増えた。

(2)権利の停止および除籍

34 名の会員が権利の停止の対象者(2010 年度以降の会費滞納者)となっている。なお、2012 年度に発行予定だった会誌第 2 号の実際の発行が今年度になったため、今年度から権利の停止の対象となる会員については権利の停止の措置を猶予している。

(3)名簿の発行

2013 年 12 月に会員名簿を発行した。

ウェブサイト

新井和広委員の報告を山本運営委員長が代読した。各地区活動、関連研究会等のお知らせの掲載を着実に続けていること、会報『JAMS News』の No.53、No.54(以上 2012 年度)、No.55、No.56(2013 年度)をウェブサイトに掲載したこと、「The Daily NNA マレーシア版」に毎月掲載されている「知識探訪」の記事を PDF ファイルでウェブサイトに再録し、今後も月一回の更新を予定していることが報告された。

来年度も、研究会等の情報の迅速な掲載、見やすいウェブサイト構築を行う。JAMS ウェブサイトに対するご意見やご要望があれば事務局までお寄せ

いただきたいとの呼びかけがなされた。

2. 研究連携ウイング

地区活動

(1) 関東地区

山本運営委員長の代読により舩谷鋭委員から、立教大学池袋キャンパスにて4月から11月まで(8月を除く毎月)例会を開催したこと、5月26日にはマレーシア映画祭「シネ・マレーシア 2013★マレーシア映画の現在」との共催によりトークショーを行ったことが報告された。

今年度は下記の研究会が予定されている。

- ・2014年1月11日(土)15時～18時
題目:陳平マラヤ共産党書記長と文銘権北カリマンタン共産党主席:棺を覆ってなされた書記長評価と、存命中の主席の評価
発表者:原不二夫(南山大学元教授)
コメント:松村智雄(東京理科大学非常勤講師・東京大学大学院総合文化研究科学術研究員)
- ・2014年2月1日(土)14時～17時
題目:イスラーム金融関連諸法の再編に対する考察:イスラームの視点から
発表者:福島康博(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員)
コメント:川端隆史(京都大学東南アジア研究所／東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員)

(2) 関西地区

多和田裕司委員より、5月19日に研究会「二大政党制は定着するのか——2013年マレーシア総選挙の現地報告と分析」を実施し、その内容をまとめてJAMSディスカッションペーパーの第3号として発行したこと、また、昨年度と同様に2月ないし3

月に研究会を開催すべく準備を進めていることが報告された。

大会

鈴木絢女委員より、2013年12月14日(土)、15日(日)、同志社大学今出川キャンパスを会場として塩崎悠輝大会準備委員長のもとで2013年度研究大会を開催する運びとなり、9月4日に個別報告を募集したところ、10月4日の応募締め切りまでに6件の応募がありすべて採択したこと、シンポジウムは大会委員により「比較のなかのマレーシア:民族と宗教に関する国家・地域間比較への展望」を企画したこと、研究大会の開催にあたっては大会準備委員長を通じて同志社大学より学会補助金(50800円)の助成を受けたことが報告された。

連携研究会

山本運営委員長より、連携研究会はJAMS会員が中心になって組織する研究活動であり、運営方針・予算に関してJAMSから独立して行うものであること、連携研究会の登録は一年ごととすること、また、過去1年間に活動が行われていない連携研究会は特に申し入れがある場合にのみ連携研究会を継続するなどが確認された。そのうえで、現在登録されている連携研究会の活動について以下のように報告があった。

・クアラルンプール地区研究会

特に報告する活動は行っていない。

・「ジャウィ文献と社会」研究会(坪井)

坪井会員より、下記3つの活動について報告された。(1)2013年9月11日、京都大学地域研究統合情報センター、クラシカ・メディア、アカデミ・ジャウィ・マレーシア等との共催で、クアラルンプールのブトラ・ホテルにてジャウィ文献に関する国際セミナー「Dari Warisan ke Wawasan: From Tradition to Vision」を実施した。(2)2013年10

月 13 日、14 日、地域研究コンソーシアム(JCAS)等との共催により、東京外国語大学にてジャウィ文献講読講習会を実施した。(3)2013 年 12 月 20 日、21 日、早稲田大学イスラーム地域研究機構、早稲田大学重点領域研究機構アジア・ムスリム研究所、マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院等の共催により実施される国際会議「イスラームと多元文化主義」において、ジャウィ雑誌『カラム』に関するセッションを企画し、パネル発表を行う(予定)。

・マレーシア映画文化研究会(篠崎)

篠崎会員より下記 9 つの活動について報告された。(1) 2013 年 3 月 15 日、大阪アジア映画祭との共催により、大阪歴史博物館にてシンポジウム「旅人が見る世界」を実施した。(2)2013 年 5 月 25 日、マレーシア映画祭「シネ・マレーシア 2013★マレーシア映画の現在」等との共催で、オーディトリウム渋谷にてトークショー「マレーシア映画の「母」たち——映像を通じた冒険」を実施した。(3)2013 年 5 月 28 日、マレーシア映画祭「シネ・マレーシア 2013★マレーシア映画の現在」等との共催で、オーディトリウム渋谷にてトークショー「マレーシア映画の光と影——物語のなかに生きる」を実施した。(4)2013 年 9 月 6 日、京都大学地域研究統合情報センターとの共催で、京都大学芝蘭会館にてシンポジウム「境界を越えて撮られる日本と日本人——短編映画に見る 3 人のグローバル映像作家の世界」を実施した。(5)2013 年 9 月 17 日、アジアフォーカス・福岡国際映画祭との共催で、キャナルシティ博多にてシンポジウム「シンガポールドリームは誰のもの?——グローバル・ハブシティが模索するアイデンティティ」を実施した。(6)2013 年 12 月 13 日、京都大学地域研究統合情報センター等との共催で、大阪大学中之島センターにてシンポジウム「混成アジア映画がつなぐ東アジア世界——『Fly Me

to Minami~恋するミナミ』が照らす世界」を実施した。(7)マレーシア映画祭「シネ・マレーシア 2013★マレーシア映画の現在」(2013 年 5 月 24 日~31 日)の日本語字幕監修を行った。(8)『マレーシア映画の現在☆2013』を刊行した。(9)マレーシア在住の日本人コミュニティを対象に、クアラルンプール日本人学校で 2 回(『タレントタイム』、『ムクシン』)、コタキナバル日本人会で 1 回(『タレントタイム』)、日本語字幕付きでマレーシア映画の上映を行った。

4. 社会連携ウイング

山本運営委員長より JAMS の社会連携活動について以下の報告がなされた。

・「知識探訪」

マレーシアで発行されている邦字紙『NNA マレーシア』に本学会の会員がコラム「知識探訪」を毎月掲載している。執筆者は会員の自薦による。積極的な応募を期待する。

・修学旅行の事前講習

マレーシアに修学旅行に行く高校生に対する事前講習について、地域研究コンソーシアム(JCAS)を通じて本学会に依頼があり、大阪教育大学附属高校池田校舎に講師を紹介した。2013 年 5 月 21 日の事前講習および 11 月 16 日の公開研究会に JAMS 紹介の講師が参加した。また、2014 年 1 月には大阪府内の高校で事前講習が予定されている。

・マレーシア国立博物館への講師紹介

マレーシア国立博物館の日本語ボランティアガイド・グループが行っているマレーシア事情研修に対して JAMS 会員を講師として紹介した。2013 年 9 月 12 日と 10 月 3 日に研修が行われた。12 月にも研修が予定されている。

5. 会誌編集委員会

金子芳樹編集副編集委員長より、2013年8月5日付けで会員メーリングリストを通じて会誌『マレーシア研究』第3号の原稿(論説、研究ノート、書評論文、書評)を10月30日締め切りで募集したが投稿がなく、再募集することが報告された。

6. その他

山本運営委員長より、JAMS ディスカッションペーパーの第2号『ルックイースト政策(東方政策)の30年と今後の展望——ディスカバリージャパン・セカンドウェーブに向けて』および第3号『二大政党制は定着するのか——2013年マレーシア総選挙の現地報告と分析』が刊行されたことが報告された。いずれも学会ウェブサイトからダウンロード可能である。

【審議事項】

1. 2012年度の会計報告について

坪井委員より、配布資料に基づいて2012年度の会計報告がなされ、永田淳嗣監査より監査結果が報告され(坪井委員代読)、いずれも承認された。

2. 賛助会員制度について

山本運営委員長より、昨年度の会員総会で検討された賛助会員の制度を導入すること、これに伴って本会の規約を以下のように改正することが提案され、承認された。

(1) 会則第4条の会員の種別に関する規定に正会員と賛助会員の別を設け、「賛助会員に関する規程」を定める。

①会則の改正

第4条「会員は、この会の目的に賛同し、

所定の会費を納めた個人または法人とする。」を以下のように改正する。

「1. 本会の会員は、次の2種とする。

(1) 正会員 本会の目的に賛同し、所定の会費を納めた個人

(2) 賛助会員 本会の事業を賛助するために、運営委員会によって入会を承認された個人及び団体

2. 賛助会員については別に定める。」

この改正は2013年12月15日付けで施行する。

②「賛助会員に関する規程」の制定

会則第4条第2項に基づき、「賛助会員に関する規程」を定める。

(2) 規約(会則、細則、会長選挙規程)における「会員」を「正会員」に修正する。(ただし、「会員の権利」および「会員資格」の「会員」は除く。)この改正は2013年12月15日付けで施行する。

①会則

第5条第2項、第4項、第6条第2項、第6項、第6条(a)第2項。

②細則

第3条第1項、第2項、第3項、第5条、第6条第1項(3箇所)、第2項、第12条、第13条第2項(2箇所)、第3項、第14条、第16条。

③会長選挙規程

第3条第1項、第2項、第4条第1項、第2項、第3項(2箇所)、第4項(2箇所)、第5項、第6項、第5条第1項、第2項(2箇所)。

3. 会長選挙について

國谷徹選挙管理委員より、10月4日に会長候補推薦の提出を呼びかけ、10月18日の提出期限までに富澤寿勇会員を会長候補とする会長候補推薦書1通が提出されたこと、規定により富澤寿勇会員を会長予定者としたことが報告された。これについて審議され、富澤寿勇会員を次期会長とすることが承認された。任期は2014年4月1日より2016年3月31日までの2年間。

4. 2014年度～2015年度の運営体制について

富澤次期会長より次期運営委員長候補者として山本博之会員が指名され、山本会員より次期運営委員会および次期監事候補者が以下のように紹介され、いずれも承認された。

・研究連携ウィング

研究企画 穴沢眞、吉村真子、川端隆史

研究大会（2014年度）永田淳嗣

研究大会（2015年度）舛谷鋭、鈴木絢女

関東地区 福島康博、砂井紫里

関西地区 多和田裕司、上田達、黄蘊

・社会連携ウィング

担当委員 岡本義輝、畝川憲之、東條哲郎、

戸加里康子、永田篤史、西芳実

・会誌編集委員会

編集委員長 金子芳樹

副編集委員長 田村慶子

編集委員 井上真、山本博之

・事務局担当委員

総務 山本博之

会計 坪井祐司

会員情報 篠崎香織

広報 新井和広

また、事務局を京都大学(地域研究統合情報センター・山本博之研究室)に置くことが報告された。

5. 2014年度の研究大会について

山本次期運営委員長より、2014年度の研究大会は2014年12月13日(土)、14日(日)に東京大学駒場キャンパスで行うこと、自由研究発表と企画シンポジウムを行い、自由研究発表の報告者は2014年度に入ってから募集することが提案され、承認された。

6. 2014年度予算案について

坪井次期会計担当委員より、配布資料にもとづき2014年度予算案が提示され、承認された。